

「スペシャルオリンピックス2014福岡」へのボランティア活動

11月1日から3日の3日間に渡り「2014年第6回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・福岡」が開催されました。スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じ提供しているスポーツ組織をいい、1968年に、故ケネディ大統領の妹ユニス・シュライバーさんが、当時スポーツを楽しむ機会が少なかった知的障害のある人たちにスポーツを通じて社会参加を応援したいという思いで設立した活動です。現在は世界各地に広まり、日本でも全国47都道府県で約8,000人のアスリートと14,000人近いボランティアが参加する組織となっています。また、オリンピックと同様に4年毎に夏季・冬季の世界大会が開催されており、今大会は来年ロサンゼルスで開催予定の世界大会の国内選考を兼ね、福岡では初の夏季大会開催となりました。

当社は本大会の趣旨に賛同し、スポンサーとして協賛するとともに、延べ100名の社員およびその家族がボランティアに参加

しました。その内容は受付、物品販売、選手団のアシスタントや、アスリートと一緒にを行うふうせんバレーボールへの参加など多岐に渡り、どれも貴重な体験となりました。中でも表彰式ではアスリート全員が表彰されるという、固定概念を覆されるもので、一人ひとりの満ち足りた表情が本大会の素晴らしさを物語っていました。

当社が取り組んでいるダイバーシティにもつながる今回の経験が、一人ひとりのあり方を見つめ直すきっかけとなれば幸いです。



ふうせんバレーボールの様子



表彰式の様子

■ お問い合わせ先： 人事総務部 TEL 093-645-8801 FAX 093-631-8837

陸上部 NEWS

<http://www.yaskawa.co.jp/activities/track-field/index.html>

6月から10月にかけては、秋・冬の駅伝、ロードレース、マラソンに向けた体作りの時期でした。このため、選手達は高原地における合宿での走り込みを実施し、状況チェックのためにレースに出場し体調の確認を行ってきました。

まず、6月に北海道で開催されたホクレンディスタンスチャレンジ深川大会に久保田大貴選手が出場。結果は18位でしたが、強豪選手が夏場に集結する大会でスピードの確認を行うことができました。

元旦のニューイヤー駅伝に出場するには、11月の九州地区予選で上位6チーム以内に入らなくてはなりません。このうち、2チームは福岡県以外でほぼ確定。残り4チームを当社を含めた福岡県内の5チームで争うこととなります。



福岡県選手権で独走優勝した北島選手

このような状況下で9月に開催された福岡県選手権一般10マイルには、駅伝を見据えて当社より5名の選手が出場しました。レースは序盤から北島寿典選手が積極的にレースを組み立てて独走。2位以下の選手を1分以上引き離す力強い走りを披露しました。また、春先に最も多くトラックレースを経験した野本大喜選手が9位に入る健闘を見せ、取組んだことが無駄で

はなかったことを証明しました。

一方、マラソンに向けた取り組みとして、10月に山口県で開催された全日本実業団対抗陸上競技選手権大会で、中本健太郎選手が10000mに出場。69名の選手が出場したため、3組に分けてのレースで1組目を走りました。中本選手は、マラソン終盤での競り合いを想定し、自身で集団を引っ張ったり、ペース変化を加えるなど、より実戦的なレースの組み立てをしました。結果、ラスト勝負まで持ち込み1組で3位と十分に収穫を上げることができました。

前回のニューイヤー駅伝では24位と惨敗しました。この屈辱を晴らすため、チーム一丸となって練習に取組んでいきます。これからも引き続き応援をお願いします。

◆ 2014年6月～10月の主な戦績

日程	大会名	成績
6月25日	ホクレンディスタンスチャレンジ深川大会	久保田選手、男子10000m C組で18位
9月28日	福岡県選手権	北島選手優勝、野本選手9位、久保田選手14位、平山竜成選手15位、黒木文太選手21位
10月10日	全日本実業団陸上	中本選手、男子10000m 1組で3位

選手の声

夏合宿などで充実した練習を行うことができたので、その成果をレースで発揮することができてよかったです。今後もこのいい状態を維持しながら、駅伝やロードレースに臨んでいきたいと思います。

北島 寿典